第 20 回：道

会長　田中 仙堂

茶の文化が、「道」としての側面を持っており、その側面を私たちが重視しているのが茶道という言葉に反映されています。

「茶の道」（ちゃのみち）という言い方もされるのは、「道」（みち）としての性格を強調してのことです。まずは、「道」について考えてみましょう。

まず、始めは道がなかったところに、どのように道ができたのかと考えれば、人々が通った跡が、踏み固められて道になっていくものです。私たちは、先人が残してくれた道を通れば、新たに荒野を引き開くことなく、先人が進んだ場所にまで到達することができます。その意味で、茶道とは、先人に切り開かれた道を通じて、茶の文化に関わっていくことを意味します。さらに言えば、その道を通って、道の先端に達したら、後に進む人のために、さらに一歩先まで歩みを進めていくことが、先人への恩返しになります。

次に、道とは、誰かに出会う場所でもあります。思えば、仙樵居士、仙翁前会長の切り開いた道を歩む中で、すばらしい皆様と出会うことができました。この想いを懐いているのは、私一人ではないはずです。

道の先頭に立って進む会長としては、この道にたくさんの人々を誘い、これからの皆さんにとっても、すばらしい出会いの場所にしていきたいと思います。

茶道は、皆さんにとってどんな道なのか、もう一度、考えていただき、新たな歩みを進めてまいりたいと思います。

平成 29 年 2 月発行　会報「えんじゅ 90 号」掲載